

東京国際空港（羽田空港）の新しい滑走路（D滑走路） 3,000t 超大型クレーン船が東京湾に集結

トピックス

東京国際空港（羽田空港）の4本目の滑走路（D滑走路）建設工事では、平成20年1月9日に棧橋部ジャケット第1号基の据え付け作業が無事完了し、D滑走路本体の一部が初めて海面に姿を現しました。その後、順次据え付け作業を実施しており、2月22日現在で13基のジャケットが据え付けられ、将来の滑走路島が徐々に広がっています。

現在、棧橋部ジャケット搬出、曳航、据え付けのため、東京湾（羽田の工事区域、新日鉄インフラリング 富津工場、JFEインフラリング 千葉ヤードおよび三菱重工業横浜製作所）に、日本全国の超大型クレーン船6隻のうち4隻^注が集結しています。

そのうちの1隻である第28吉田号は、羽田空港の2本の現滑走路（A滑走路、C滑走路）の離着陸に影響を及ぼさない高さ制限下で昼夜工事を進められるように、作業船高さを低くするよう改造しました（3,000t吊→2,400t吊）。

棧橋部では198基のジャケットを据え付ける予定で、週2基程度のペースで据え付けを行い、約2年後の据え付け完了を目指します。棧橋部ジャケット（標準型）1基は、W63m×L45m×H35m、最大重量約1,600tです。

また、埋立部では、現在、地盤改良工（サンドドレーン（SD）工、サンドマット工、深層混合固化処理（CDM）工、盛り上がり土の撤去工）が昼夜24時間体制で行われており、平成20年秋頃に護岸部が概成する予定です。

なお、工事の状況は、D滑走路展望台から見学することができます。見学をご希望される方は是非お越しく下さい。（詳細については、HPで随時情報配信しています）

注）「2007年度 現有作業船一覧（社）作業船協会」を基に、3,000t吊以上の作業船について対現有隻数占有率を概略調査したもの。羽田で使用しているものは、①第50吉田号（3,700t吊）、②武蔵（3,600t吊）、③富士（3,000t吊）、④第28吉田号（3,000t吊→2,400t吊に改造）。これ以外に、海翔（4,100t吊）、新寄隆（3,000t吊）が存在

平成20年2月25日
国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 東京空港整備事務所 D滑走路プロジェクト推進室 しけ みとめ 四家・三留
住所 東京都大田区羽田空港3-5-7メンテナンスセンターアネックス5階
電話 03-5756-6573
HP <http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/haneda/>

■ 3,000t超級大型クレーン船 東京湾に集結

日本全国の超大型クレーン船6隻のうち4隻^{注)}が集結しています。

注)「2007年度 現有作業船一覧(社)作業船協会」を基に、3,000t吊以上の作業船について対現有隻数占有率を概略調査したもの。



第50吉田号(吉田組 3,700t吊)

完成したジャケットの据え付けを行う(平成20年1月9日～)『羽田空港工事区域』



武蔵(深田サルベージ建設 3,600t吊)

上部ジャケットの積み下ろし、完成したジャケットの積み出しを行う(平成20年9月14日～)『新日鉄エンジニアリング 富津ヤード』



富士(深田サルベージ建設 3,000t吊)

上部ジャケットの積み出しを行う(平成20年9月14日～)『三菱重工業横浜製作所』



第28吉田号(吉田組 2,400t吊)※

完成したジャケットの据え付けを行う(平成20年2月～)『羽田空港工事区域』

※D滑走路建設工事のために、作業船高さを改造し、3,000t吊から2,400t吊になりました。

■ 日本全国でジャケットの製作を行っています。

● 上部ジャケット製作拠点
若松工場・津製作所・横浜製作所

↓ 海上輸送

● 下部ジャケット製作／一体化拠点
富津ヤード・千葉ヤード



■ D滑走路建設工事のため、作業船高さを改造(第28吉田号)

第28吉田号は、羽田空港の2本の現滑走路(A滑走路、C滑走路)の離着陸に影響を及ぼさない高さ制限下で昼夜工事を進められるように、作業船高さを低くするよう改造しました。

改造前: 制限表面に抵触

↓ 制限表面に抵触することなくジャケットの据付作業を行うことができるよう作業船を改造

改造後: 制限表面からのクリアランスを確実に確保できる

